

木津川計さんの口演を聴いて

木津川計さんの最後の一人語り劇場「私は貝になりたい」の口演を灘区民ホールに観に（聴きに）行った。木津川さんは、これという映画を口で語るということをして2007年から行なわれてこられた。芦屋のルナ・ホールでも開催されたこともあった。



「私は貝になりたい」は、1958年、当時の東京放送、現在のTBSがテレビドラマとして放送したものだ。脚本は橋本忍、演出は岡本愛彦だった。放送するや大評判となり、その年の芸術祭賞まで受賞した。翌年に東宝が映画化。監督は橋本忍自らが初めてメガホンをとって制作した。これがまた、ヒットしたのは、主人公である土佐の漁村の散髪屋・清水豊松を演じたフランキー堺の好演によるところも大きいものがある。

ざっと粗筋を辿ると、清水豊松は上官の命令で標的の米兵を刺殺、その責任を問われ、戦後、戦犯として絞首刑の判決を受けた。直接命令した軍曹は重労働30年、上等兵は25年なのに、命令された豊松は死刑。戦犯裁判の不合理、戦争の不条理を描いた作品だった。

もう一つこの作品と比べる映画がある。1959年に制作・公開されたイタリア映画の「ロベレ将軍」。イタリア人の真の矜持に触れ、イタリア人の誇りに目覚める主人公。ここで違うのは死に方の違い。豊松はただ何もせず死んでいったが、このイタリア映画の主人公は自ら死を選んだ。

「無作為の作為」何もしないことで罪を犯している。私たちが気が付いた時にはすでに遅いのもかもしれない。「じっと何もしていないだけの人間にはならないでください。」木津川さんにそう言われた気がした。（世話人 久家登志子）

「中村哲医師が パドマ・シュリー賞を受賞」

インド政府が民間人に贈る最高栄典の一つ「パドマ・シュリー賞」を、アフガニスタンで人道支援に尽くした医師・故中村哲さんが受賞。3月29日に神戸市内で授賞式があった。

パドマ・シュリー賞は国籍を問わず公共性のある分野で優れた功績を残した人に贈られる。中村さんはアフガニスタンで長年、医療や農業支援に尽力したことが評価された。サンジェイ・クマール・バルマ駐日インド大使は授賞式で「中村博士は地域住民と彼らの文化の尊重を最も重要視していた。このことは異文化理解と国際協力の真髄だ」とたたえた。

<3/31付朝日新聞デジタル版より抜粋>

芦屋「九条の会」17周年記念のつどい 藤原辰史さん講演会

ウクライナ侵攻と日本の立場

—日本国憲法前文の使用法—

2022年6月12日(日)

14:00~16:30(開場 13:30)

芦屋市民センター401

参加協力費 500円

(大学生以下・障がい者無料)

主催 芦屋「九条の会」

後援 芦屋市・芦屋市教育委員会

詳細は同封のチラシご参照ください。

(情勢の変化等で講演タイトルが変更になりました)

「訃報」

芦屋「九条の会」世話人の松田妙子さんが4月12日ご逝去になりました。「記念のつどい」では、オリジナルの紙芝居をご披露いただき大好評でした。

心よりご冥福をお祈りいたします。